

秋の半も過ぬべし、とよまれたる、定家卿の詠などにもとづきて、名付しならん、新撰六帖はつき
の歌に、秋もはや半になれやと、衣笠内大臣家良もよまれたり、

〔日本書紀神武三〕戊午年秋八月ハヅキ

〔日本書紀通證神武八〕八月ハヅキ葉月也、謂二、
黃葉可レ愛、

〔後撰和歌集秋六〕あひしりて侍ける女の、あだ名たちて侍ければ、久しくとぶらはざりけり、八月ば

かりに女のもとより、などかいとつれなきと、いひをこせて侍りければ、略○歌

〔秘藏抄上〕十二月異名 八月はつき略○中 さ、はなさ月

〔莫傳抄〕十二月異名 木染月 草津月 八月略

〔藏玉和詔集〕十二月異名略○中 八雁 秋風月 月見月 紅染月

〔伊呂波字類抄奈〕九月○律中無射キ

〔八雲御抄三上〕九月 ながつき

〔下學集上〕無射キ九月 長月夜長時分

〔二中歷五時〕月倭名 九月俗説云、九月夜漏漸長、故此月爲夜長月、今所謂ナガツキハ、是ヨナガツキノ略也、

〔奥義抄上末〕九月ながつき 夜やうくながつきながきゆゑに、夜なが月といふをあやまれり、

〔語意考〕九月を奈我月ナガツキと云は、伊奈我利月イナガツキの上下を略きいへり、稻は九月に蒔をさむる也、

〔倭訓栞前編十九〕ながつき 九月をいふ、長月の義、夜長月ともいへり、拾遺集に、夜を長月とよめ
り、漢にもふるくいひ傳へたり、

〔古今要覽稿時令〕ながつき九月 ながつきは九月の和名なり、さて皇國にてこの月の名始めて

みえしは、戊午ナガツキ九月甲子朔戊辰日本書紀と神武紀 志るせるぞはじめなる、志かれども此前より、此月の

名目のみにあらず、月々の和名は有しなるべし、歌にふるくよめるは、石田王卒之時、山前王哀傷